

議題1. 蚕糸をめぐる情勢と今年度の事業計画について

【総論】

- ・ 検討会では現在の蚕糸業の状況について危機感を共有し対策を考えていくことが重要と考える。

【新たな混合薬剤による蚕室消毒方法の実証と研修】

- ・ 消毒剤のマニュアルはパソコンで見られるようにデジタル化するとともに動画を作成することとしてはどうか。
- ・ 農家が試しに購入して使用できるように、小分けして販売してもらえると良い。
- ・ 薬剤の呼びやすい名前を決めた方が浸透しやすい。
- ・ この消毒剤を使用しても別の要因で膿病にかかる場合があることをマニュアルの中で説明しておくが良い。

【桑剪定杖のバイオ炭化試験】

- ・ バイオ炭化は温室効果ガスを削減するという目的であるが、桑の炭であることの利点や地域で活用できる方法（画材、染色、バーベキューなど）を見つけられるとなお良い。
- ・ このような環境に配慮した取組はヨーロッパでの評価が高い。

【蚕糸業を核とした地域づくり事例集の作成】

- ・ 事例集は20地区と言わず、希望する地区は全て載せてはどうか。
- ・ 市町村だけではなく、県の取組（群馬絹産業遺産群）や協議会の取組（八王子桑都物語）も加えてはどうか。

【新たなビジネス潮流WGの活動計画】

【その他の事項】

議題2. 持続的養蚕業の確立について

【課題の抽出】

- ・ 農家の高齢化が進んでいる。家族経営と言えども奉仕事業ではない。繭単価を上げることが必要。
- ・ 蚕種製造については、会社の経営はともかく、種繭を作ってくれる農家がいることが生命線。
- ・ 製糸業者としては、国産繭が減少すると操業できなくなる。国産繭を確保するため企業の参入や農福連携などの方法も必要と考えている。
- ・ 養蚕資機材の供給については、ベトナムなどの途上国に日本の技術を広め、海外で製造した資機材を輸入するという方法もあるのではないかな。
- ・ 世界遺産富岡製糸場の動態展示による蚕糸業の再生も検討している。

【国産繭の試験的入札の実施について】

【「蚕糸の日」の制定について】

- ・ 「蚕糸の日」を制定することについては全員賛同。
- ・ 事務局提案の「3月4日」、「3月14日」以外の案としては、「10月4日」（明治5年に富岡製糸場操業した日）、「8月3日」（ヨーサンの語呂合わせ）。
- ・ 「蚕糸」という漢字も読み書きできるように普及する意味では「3月4日」が良い。
- ・ すでに来年3月4日に蚕糸関係者が集まるイベントを計画中。
- ・ 第2回の検討会で決め、マスコミも活用して広く国民に知ってもらうように広報すべき。

議題3. その他

- ・ 次回会議は11月8日（金）13:30～ 蚕糸会館6階第1会議室